

少子化対策 新規事業に力点

総額95億2000万円 過去2番目の規模

町村の予算

富士見町は21日、総額95億2000万円の2025年度一般会計当初予算案を発表した。過去最大規模だった前年度当初比で1・6%減ったが、物価や人件費の高騰が影響し、過去2番目の大型予算。24年度から繰り越す繰越明許費の

事業を含む総額は103億7000万円。過去最大となった。少子化対策を見据えた新規の支援策に力点を置いた。出産・女性支援では、新たに町独自で陣痛、出産時に利用するタクシー代の助成制度を新設。分娩施設利用時の交通費や宿泊費も新たに助成し、女性向けのテレワーク・防災対策を強化するため、就労支援講座も新設する。教育分野では将来の小学校・保育園の統廃合を見据え教育のあり方を検討する「子ども未来プロジェクト」を設置。小学6年生を対象に起業家精神を育成する「アントレプレナーシップ教育」への補助金も新設した。

富士見町25年度予算案 総額95億2000万円

歳入	町税	27.0%	地方交付税	26.0	国・県支出金	12.8	分担金・負担金	9.6	8.0	その他	16.6
	歳入	民生費	26.5%	総務費	17.4	土木費	12.9	教育費	9.4	8.8	その他

※小数第2位を四捨五入

主な事業(万円)

インフラ整備・防災	
同報(防災行政)無線整備工事(新)	1億2200
有線放送センター設備更新(新)	6488
防災ガイドブック作成(新)	767
産業振興・まちづくり	
創造の森彫刻公園環境調査(新)	799
区・集落組合加入促進ガイド作成(新)	89
リニア活用に向けたまちづくり調査(新)	396
出産・女性支援	
陣痛・出産時タクシー利用費助成(新)	6
女性向けテレワーク・就労支援講座(新)	303
分娩施設利用時交通費助成(新)	15
教育支援	
「子ども未来プロジェクト」設置(新)	26
起業家精神育成への補助金(新)	50

財政運営 難しいかじ取り

記者はこう見る

富士見町の2025年度当初予算案は前年度に次ぐ2番目の予算規模となった。名取重治町長は新年度から財政推計の作成を専門家に依頼して行財政改革を進めるとし、21日の記者会見で「経費削減や財源の工夫に全力を挙げて取り組みたい」と説明した。物価高騰が財政を圧迫する中、2期目最終年として人口減少対策や観光振興を図りつつ効率的な行財政運営に取り組めるか、真価が問われている。

同報無線や有線放送のセンター設備を更新。ハザードマップ改訂に伴い、新たな防災ガイドブックを作成する他、町内の防災士が連携する連絡会の設置や研修費用も計上し、防災意識の向上を図る。歳入は町税が前年度比4・1%増の25億7千万円、地方交付税は4・2%増の24億8千万円。町債(借金)は55・4%減の5億2500万円。経費は物価高騰が押し上げて11・2%増の36億1200万円と膨らんだ。企業版ふるさと納税で寄付を受けた3億円を原資に町有の「創造の森彫刻公園」整備へ新年度から5年計画で着手。当初予算案にも環境調査の委託費を計上し、八ヶ岳観光の強化に乗り出す。一方、町有の「道の駅信州 葛木宿」は物価高で工事が膨らみ、24年度の一般会計補正予算案に追加と工期の延長を余儀なくされた。今後は富士見パノラマゾーンの設備更新や老朽化した道路などの改修も迫られる中、財政推計を活用した健全な財政運営と町有施設の整備が両立できるか、難しいかじ取りが続く。

(山本 幹太)